

学校名	新座市立石神小学校
実施日	令和5年1月17日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、何ができるとよいかを児童と共有し、達成感を感じられる授業を行っている。	B	毎時間のはじめに、本時のつけさせたい力「本時のゴール」を示し、授業を進められるようになってきている。授業の最後に児童が「ゴール」に沿った振り返りに取り組んでいる。今後も、ゴールの内容を精査し、児童とともに「達成感のある授業」を行っている。	B	授業のゴールを予め設定し、授業のはじめに説明・提示することは、児童がしっかりと学ぼうとする意欲をもつことになり、その成果があらわれている。 今後も学年に応じて、授業の理解度・達成度を確認し、次の授業への指導方法の工夫、授業進行の計画に役立て、わかる授業、知る授業、考える授業を目標にして、学校研究課題として取り組んでいただけるとよい。
2	持続可能な社会づくりのため、地域や企業等と連携し、社会情勢をふまえた児童の体験活動を充実させている。	A	感染症対策を務めながら、昨年度までのオンライン体験授業(工場見学、漁師との交流、生活科見学事前学習等)のみならず、3年ぶりの校外の生活科・社会科見学を実施した。本物の体験活動は児童の学びの刺激となるので、今後も工夫・実践する。	A	オンラインでの体験学習を継続して実行しつつ、社会情勢を考慮しながら、校外での生活科・社会科見学も積極的に実施している。また、体験学習を実施するために、事前にオンライン授業やICTを活用するなどの工夫を行い、児童に学習に対する関心・意欲を促している。 ただし、「持続可能な社会づくり」はテーマが大きすぎ、体験学習そのものとテーマを分かりやすく結びつけ理解できるような指導が必要であり、また、社会は持続可能を阻害するものも存在する事を知っておく必要がある。
3	学校はICTを積極的に活用し、技能の向上に努めている。	A	今年度から新たなアプリケーションを活用し、授業の大幅改善を実施している。これまで交流しづらかった児童の意見等を集約に活用し、全体で共有することも可能になった。教職員間でも互いに教え合い技能の向上に努めている。今後も、活用場面を明確にし、児童の技能も高めていく。	A	児童にICTを活用させるために、教職員が熱心に研修に取り組み、どの授業にもその成果があらわれている。アプリケーションを利用し、児童の意見等を集約し、尊重して、全体で共有するなど、授業内容の大幅改善が感じられる。 今後はICTの利便性の追究にのみとられず、集団で取り組む学校でしかできないことも忘れずに、ICTによって開発される児童の能力・発想の展開能力の生かし方・育て方を十分に検討する必要がある。

評価項目「**組織運営**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は、校務分掌や主任制を適切に機能させ、組織的な運営・責任体制を整備するとともに、働き方改革に取り組んでいる。	B	今年度から3委員会・3部会制でスタートし、徐々に互いに助け合い効率よく校務を進めることができた。まだまだ仕事に偏りが生じたりする場面があるので、業務の分担について見直しを進める。	B	新しい組織体制を編成し、組織としての機能を活かした取組の様子が学校行事等の実施に反映されている。 今後、さらに組織としての活動内容を精選し、若手やベテランをバランス良く配置し、業務上の負担感のない体制づくりを進めてほしい。
5	学校は、学校経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて改善計画を考え学校経営を行っている。	A	学校評価を計画通りに進め、評価で上がった課題を共有・協議し、改善に努めている。SDGsを達成する目標にむかって、ボトムアップ型の改善に努めていく。	A	管理職のリーダーシップのもと、学校経営方針を具現化する取組が明確であり、学校全体で一体感が伺える。また、達成可能な目標を提示し、実践し、成果を確認して、改善していく流れが確立されており、より発展的な学校経営がなされている。 今後も、学校は地域からかけ離れた別世界のものではなく、地域に溶け込む・地域を呼び込む姿勢が肝要であり、学校評価は学内での評価にとどめず、広く地域や家庭の意見を反映してほしい。
6	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	マニュアルは、部会を中心に年度当初・訓練時などに合わせて見直しを行っている。また、「自分の命は自分で守る」ことを念頭に、マニュアルだけに頼らない実践的な避難訓練など行うことができた。今後も、研修の機会を深め、突発時に対応できる職員体制を整えていく。	B	常に緊急事態を念頭に、定期的にマニュアルの見直し・改善を図り、教職員共通理解のもと、実践的な避難訓練を行っている。 今後、緊急事態に対応できる・統率力を発揮できるリーダーの育成も必要と考える。想定外の事故に対応できるように、事故例や対応例の情報を収集し、研修を深めながら、安心安全な学校づくりをすすめてほしい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、指導と評価の一体化を重視した授業を展開している。	B	「本時のゴール」を明確にし、授業内で児童に必要な支援策を考え、毎時間実践できるよう取り組んでいる。児童の理解度を図る振り返りとともに、次の授業へ生かすため児童に見通しをもたせることを今後も実践していく。	B	学校では、児童が「学びの価値」を発見し「学びの本質」を知って「学ぶ姿勢と学習意欲の基礎」を大切に、良好な時間の流れを授業の中に感じてほしい。学習の定着に必要なことは、児童に学習のめあてを確認させて、教師の一方的な指導だけでなく、対話的な活動、創造的な深い学びを取り入れた展開を行い、そのうえで理解度を確認する。その確認する評価方法の工夫について研修を進めること。そして、その評価を指導に生かしてほしい。
8	学校は、各教科の指導において「見方・考え方」を軸とした授業を展開し、資質・能力の三つの柱の育成に努めている。	B	校内研修を通じて、各教科の「見方・考え方」の捉え方について学びを深めている。実践では身に付けさせたい力(本時のゴール)を明確にし、特に「思考力・判断力・表現力」の育成に努めている。今後もバランスよく育成できるよう各教科の特性について互いに学び合っていく。	B	バランスよく、児童の「思考力、判断力、表現力」の育成に努め「学び」の価値を知って、「見方・考え方」を育て、資質・能力を目標にした授業展開が始まっている。思考力・判断力・表現力を育成するうえで、最も大切なものは、自己肯定力(=自信をもつ)の育成と思われる。理解できて、分かっていることを自身に気付かせるためにも、「振り返り」の評価規準を細かく決めて上手に実施する必要がある。
9	学校は、学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	学習指導要領などをもとに確かな学力の定着のために、朝学習やタブレット型端末を利用しアプリケーションを活用している。学力調査や校内研修におけるショートテストを活用し、効果的な支援策について研究を続け、児童の学力向上に努めていく。	B	文部科学省や県・市の方針に従って、言語活動を重視した中で充実した授業活動を展開し、各事項について丁寧に取り組んでおり評価できる。また、児童の学力の状況を確認しながら、学力の向上に向けた石神小学校独自の工夫された取組がなされている。今後も、学習指導要領等をもとに授業の指導内容や指導方法の研修を繰り返しながら、求められる学力を追究し、その定着と向上を図ってほしい。
10	学校は、カリキュラムマネジメントを推進し society5.0を自在に生きる力を身に付けた児童生徒の育成に努めている。	B	社会の変化に対応できる児童の育成のために、タブレット型端末の積極的な利用や高学年の教科担任制、体験学習、オンライン体験授業の推進など教育課程の実践に努めている。情報モラル教育にも力を入れて、AIや技術革新が進む社会で児童自身が適切に対応できる判断能力の育成を図っていく。	A	児童の実態や地域の実状等を踏まえて、学校教育目標を設定し、教育課程を編成し、実施・評価・改善に取り組む体制が確立されている。また、子供たち一人一人が、楽しみながら、興味関心をもつことできるように、カリキュラムマネジメントを推進し、society5.0を自在に生きる力を身に付けた児童の育成に努め、児童が楽しく取組める環境を重視して、わかりやすい授業の取組がされている。一方、急激な社会の変化に対応するため柔軟な指導方法の改善も必要であり、教職員の資質向上に向けた研修等の活発化をのぞむ。また、ボタン操作1つで他人に成りすましてしまうことも可能であるので、より一層の情報モラル教育が重要であると考え。つまり、IT教育の基本は人格教育ととらえ取り組んでほしい。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつしたり、「です、ます」をつけるなど場に応じた言葉遣いを実践したりできるよう指導している。	A	1学期を通じた生活目標であいさつに取り組む、学級活動で各クラスで目標を立て、途中評価、最終結果についての振り返りを実施し、積極的にあいさつできる児童が増えている。場に応じた言葉遣いについては、継続的な指導が必要であるので、今後も指導していく。	A	あいさつと笑顔を大切にして、正しい言葉の使い方をみなが意識して学びの中に取り入れ、明るく元気にがんばる小学校を積極的に目指している。先生、児童、保護者、地域の人、皆が笑顔で明るく元気にあいさつする言葉を交わす姿が見られるようになっている。今後展開するあいさつプロジェクトは、教職員、家庭、PTA、地域が一体となり推進することで有効な効果が発揮されることが期待される。そして、丁寧な言葉の使い、言語環境の整備に努めていくと、近い将来その努力が実を結ぶ時が必ず来るだろう。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	学校生活アンケートをていねいに行い、また日頃児童同士の関係について見守り、学年、生徒指導委員会を中心に、素早い対応がとれている。児童自身に善悪の判断をしっかり育てるために、自己肯定感を高め、お互いのよさを認め合える学級経営を行っていく必要がある。教師が普段から児童の小さな成長を認めほめるなど、児童同士が互いを認め合える環境を整えていく。	B	学校生活アンケートを実施し、児童の悩みを把握し、その解消のため管理職が率先し、組織的な取組をすすめている。また、道徳教育の充実を図り、児童の実態把握に努め、小さなことでも大切なことは全員で共有し、いじめを早期発見し、組織的にいじめの撲滅を図っている姿勢を評価する。今後も、児童一人一人が生き生き活動できる場面の設定を促し、児童の自己有用感を高め、児童同士お互いに尊重し認め合う心、姿勢の育成を期待する。
13	学校は、教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	A	教育公務員としての意識を高くもつために、倫理確立委員会を定期的に開催し、規範意識の向上に努めている。今後も、児童・保護者・地域とともに歩むためにしっかりと手本が示せるよう共通理解・共通行動で指導していく。	A	学校として全職員が児童と共に規範意識の向上に努力しており、その姿勢を高く評価する。校舎内は清掃が行き届き、児童は時間を守り、あいさつを率先している。これも教職員の指導の現れだと感じる。今後とも、石神小学校としての規範意識の向上に努めてほしい。普通の大人の常識的な行動規範はもちろんだが、教育公務員として更に高度なものが求められる。若手教職員はそれに委縮することなく、ベテラン教職員の指導を受け、若くはつつつとした行動で児童に接してもらいたい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	社会的情勢を踏まえ、感染症対策に努めながら実践をし、昨年度以上に体の動かす機会、運動量の確保について努力している。体育部を中心に、短時間できる運動なども体育朝会で紹介したり、休み時間の外遊びを推奨したりしている。今後も社会的情勢に合わせ、体力向上の取組を工夫していく。	A	コロナ禍にあっては、活動が制限される状況が続いている。体育の時間を中心に、明るく元気に活動ができるよう環境面に配慮して、効果的な運動を組み合わせ、体力の維持向上につながる授業に努めており評価できる。休み時間帯には、グラウンドで元気に走り回っている児童も多い。 しかし、コロナ禍での体力の低下は否めない。外遊びを推奨し、授業等では走力・投力・握力など基礎体力の向上のための工夫をお願いしたい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	栄養教諭として授業に係わる機会も増え、給食月間内の給食委員会の取組や給食クイズなど計画的に行っている。児童の食に関する意識も高まっているので、環境を意識した食育を実践していく。	A	委員会活動や授業、学校教育農園等の活動を通じて、児童に食について考える機会を提供するなど積極的に食育について取り組んでいる。 食育とは、生活の基礎作りに役立つ基本的な食事を学ぶ教育である。いったん身についた食生活や考え方は成長してからは改めることが難しく、大人になっても子供に指導ができない。今後、児童の食生活の実態を把握し、適切な指導を繰り返してほしい。また、食に関する掲示物等を作成し、日常的に食育に触れ合う機会を増やしてほしい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	保護者や地域からいただいた御意見を、教職員で共通理解し、迅速な対応に努めている。子供たちをよりよく成長するため、石神小学校をよりよくするために、互いのできることを共有し、保護者・地域とともにある学校づくりを進めていく。	A	コロナ禍の中、保護者・PTAや地域住民の意見を積極的に取り入れる努力をし、適切な対応に努めている。また、学校応援団・地域つながり応援団、町会の人々と地域の会議や交流を通して、人と人の触れ合う機会を大切に考えており、評価できる。 今後、さらに保護者・地域との連携を強化し、地域に根ざした学校づくりに励んでほしい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	働き方改革の推進のため、学校だよりや学年だよりの発行方法について工夫し、写真を増やすなど情報提供に努めている。授業参観等の機会はまだまだ十分に機会を確保ができないので、今後もホームページなどで随時活動の様子について提供していく。	A	学校活動の様子が、写真付きでホームページが更新され、ホームページへのアクセスも多く関係者からの期待も高い。また、学校・学年だより、保健・給食だより、クローバーだより、PTAだよりの定期的に発行も順調で、情報源も充実しており、学校・学年の様子が分かりやすく紹介され理解しやすい。 ただし、ホームページを積極的に見る保護者も少なくはないことや地域の一部では学校だよりの回覧を不要とする住民がいる。コミュニティスクールについての説明、情報提供、広報活動が不足していると思われる。情報提供を含めて保護者・地域を巻き込む活動を通じて理解を深めていく努力が必要である。
18	学校は、コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進により、社会に開かれた教育課程の編成・実施を行っている。	A	学校運営協議会を中心に、保護者・地域と連携する機会を生かし開かれた教育課程の推進に努めている。学校運営協議会では教職員・児童の発表する機会を作り学校の成果や課題を共有している。今後は「あいさつの町 石神」プロジェクトを推進し、地域とともにある学校づくりに取り組んでいく。	A	学校運営協議会を中心に、保護者・PTA・応援団地域と積極的に連携する機会が増えてきている。学校運営協議会では、学校の教育目標や課題等を共有し、地域と学校の連携・協働が推進されるなど、社会に開かれた教育課程の編成・実施が実践されている。また、教職員・児童の発表する機会をつくり、学校の成果や課題を共有していることも、新しいタイプの試みであり、期待がもて、教育の未来にワクワク感をもつことができる。 今後も社会に開かれた教育過程の推進に努め、新しい発想での改革・改善に期待したい。そして、その成果について確認し、啓発をすすめてほしい。